

アブシジン酸受容体研究のデッドヒートと進展

田之倉先生、篠崎先生のグループの今回の成果(本サイト [TP プレスリリース](#)欄参照)は、物凄いデッドヒートでした。植物ホルモン・アブシジン酸が大変重要な役割を果たしているにも関わらず、その受容体はなかなか見つからず、見つけたとの報告が何回もありながら、決定的ではありませんでした。その紆余曲折の研究小史は、5月22日付け [Science: This Week's News](#) “Stressed Out Over a Stress Hormone” と題して纏められています。(本サイトタンパクニュースウオッチ欄掲載)

この5月に *Science* 誌にアメリカとドイツから独立に受容体同定の報告がありました。[Science, 324, 1064-68\(2009\)](#) と [Science, 324, 1068-71\(2009\)](#) (5/4 タンパクニュースウオッチ欄掲載 [Chemical & Engineering News](#) 参照) アメリカから報告については、UC Riverside が[プレスリリース](#)を発信しています。

そこから、アブシジン酸-受容体の構造解析競争が始まり、受容体を見つけたアメリカの UC Riverside のグループが Scripps の構造解析チームと組んで、10月22日付けで *Science* に [Advance online publication](#) しました。(10/24 タンパクニュースウオッチ欄掲載の [Scripps プレスリリース](#)参照) 田之倉先生らの[論文](#)は *Nature* に10月23日付けですから、本当にデッドヒートでした。

構造解析についてはその後も別のグループから *Nature*、*Nature Struct. Mol. Biol* などに論文発表が相次ぎました。12/3 タンパクニュースウオッチ欄掲載の [Nature News and Views](#) に纏めの解説があります。

2009.12.18 情報プラットフォームチーム記